

住居の構造安全性に関する意識調査

—その2 心理学的手法による住居の価格と破壊確率に関する潜在意識の抽出—
尚絢女学院短大 ○平田京子 日本女大家政 石川孝重

目的 住居の構造安全性は建物の破壊確率で表現できる。安全性は高いほどよいことは自明であるが、それに見合うコストが必要になる。コストに応じ、どのくらいの破壊確率の設定を行うべきか、この設定は従来主に専門家にまかされてきた。安全水準の設定は本来、社会のコンセンサスに基づくものである。そこで、本研究ではコンセンサスを抽出するため人間の要求する水準を明らかにすることを目的とした。本報では住まい手の安全意識をさぐるため、主に住居の価格・建物が破壊する確率とその再現期間について専門用語を用いず、簡便な方式で抽出し、精度の高い潜在意識を明らかにするため、心理学的手法に基づくアンケート調査を行った。この手法の検討および調査結果について報告する。

方法 前報に発表した心理学的手法に基づくアンケートをさらに改良した。アンケート対象者として類似した属性をもち意識の特徴把握が容易な 379名の女子大学生・短大生を選び、1993年から1994年にかけて、東京・仙台・長崎において調査を実施した。

結果 回答者が「はい・いいえ・？」で回答する簡便な方式と数値記入による2種類の回答方式を案出した。本手法により回答者の曖昧な構造安全意識を、数値解析や自己矛盾の指摘が可能な程度にまで引き上げ、質問をランダムに配しても、ある一定の数値にピークがくることが分かった。この自分の住まいやそれにかかる金額を明確にイメージできる問題を構成したことで、理想論的な安全観でなく金銭を意識した現実に近い意識が抽出できたと考えている。結果は力学に基づく解析に当てはめ、建物に対する破壊確率として算定できるよう配慮した。回答のばらつきや個人の意識把握に関し、本手法の有効性を確認した。